



リサイクルで温暖化対策！

石油などから生産されているプラスチックは、焼却すると自然界では吸収しきれない二酸化炭素が発生します。脱炭素社会を目指すためには、プラスチックごみをなるべく焼却処理しない取り組みが必要です。

江戸川区では、平成20年度から容器包装プラスチックの分別回収を行っています。令和2年度時点で燃やすごみのなかに約5千tの容器包装プラスチック（落とせる汚れ）が含まれています。

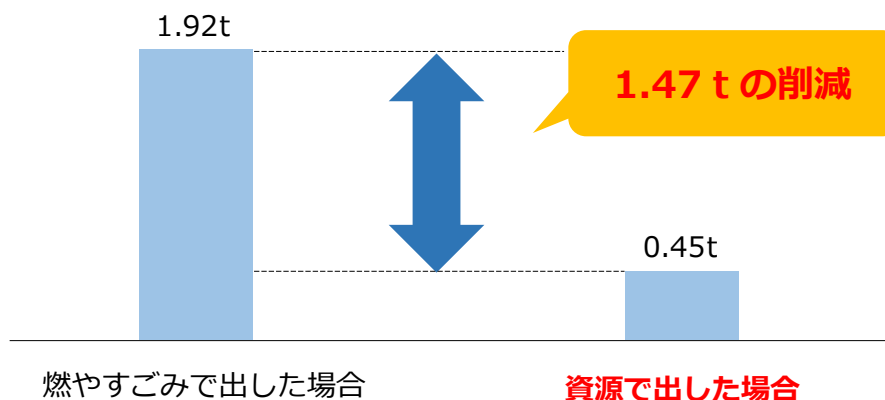
容器包装プラスチックを焼却した場合、清掃工場で熱回収を行っている分電力会社のCO₂が減りますが、それを差し引いたとしても容器包装プラスチック1tあたり1.92tのCO₂が排出されます。

一方、容器包装プラスチックのリサイクルを行った場合、燃やすごみとして焼却した場合と比較して容器包装プラスチック1tあたり1.47tのCO₂が削減されます。

燃やすごみのなかに含まれている約5千tの容器包装プラスチックが正しくリサイクルされた場合、7,350tのCO₂が削減されることとなります^{※1}。

正しく分別を行うことは、循環型社会の構築だけでなく、脱炭素社会の構築にも繋がります。「分別するのが面倒だから燃やすごみにいれてしまおう」「これくらいなら良いだろう・・・」という気持ちの積み重ねが地球温暖化を進行させています。1人ひとりの取り組みがとても大切です。

改めて、みんなでリサイクルを徹底しましょう！



※1 日本化学工業協会等「プラスチック製容器包装再商品化手法およびエネルギーリカバリーの環境負荷評価（LCA）」のデータを使用して推計。



ごみの行き場がない！？最終処分場問題

23区のごみは、燃やすなどの中間処理をした後、埋立処分場に運ばれます。今使われている新海面処分場は、あと50年くらいは埋め立てができますが、東京港に作ることができる最後の埋立処分場であるため、少しでも長く使う必要があります。

残された貴重な最終処分場を1日でも長く使用するため、ごみの減量や資源化などに積極的に取り組んでいかなければなりません。

埋立処分場の場所

23区のごみを江戸川区のほぼ10分の1の面積にあたる場所に埋め立てなくてははいけません。





1つではない！様々なリサイクルのかたち

リサイクルには、品目やモノの性状に応じて様々な手法があります。大きく分類すると**マテリアルリサイクル**、**ケミカルリサイクル**です。

マテリアルリサイクル

廃棄物を、破碎、溶解などの処理を行った後に同様な用途の原料として再生利用するリサイクルです。例えば、びんを砕いてカレットにした上で再度びんを製造する、アルミ缶を溶かしてアルミ缶その他のアルミ製品を製造することなどがマテリアルリサイクルにあたります。

ケミカルリサイクル

廃棄物を化学的に分解することで原料等を得て、製品原料として再生利用するリサイクルです。ガス化によるアンモニア製造の原料としたり、コークス炉の化学燃料としたりすることなどがケミカルリサイクルにあたります。

循環型社会の構築という視点では、マテリアルリサイクル → ケミカルリサイクルの優先順位で推進していくべきとされています。

ただし、リサイクルの推進にあたっては、商品やサービスの原料調達から生産・流通さらには廃棄・リサイクルに至るまでの一連のライフサイクルにおける環境負荷も考慮に入れながら実施していく必要があります。

マテリアルリサイクルを優先させた結果、環境負荷が大きくなるのは望ましいことではありません。リサイクルを行うモノや性状に応じてどのようなリサイクルを行うのが環境負荷を軽減させることができるのか、しっかり考えたうえでリサイクルを推進していく必要があります。

なお、以前は清掃工場等で廃棄物を焼却する際に発生する熱を発電や温水として利用することをサーマルリサイクルと呼んでいましたが、現在は熱回収（サーマルリカバリー）と呼び、リサイクルとは扱っていません。



3R+Renewable によるプラスチック資源循環

3R とは？

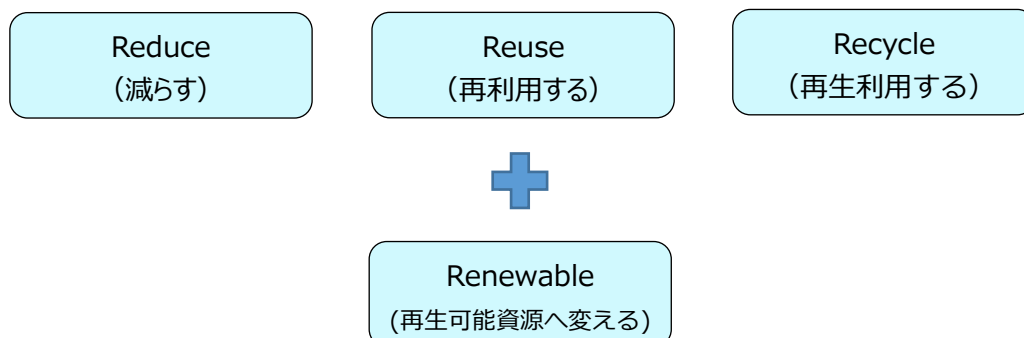
「Reduce」、「Reuse」、「Recycle」の頭文字を取った3つの行動のことです。

Renewable とは？

「Renewable」とは、「再生可能な」という意味です。行動としては、再生不可能な資源から再生可能な資源に替えることを指します。例えば、プラスチック製の文具を「バイオマスプラスチック」製に替えることが「Renewable」の取り組みの一つです。バイオマスは植物などの再生可能な資源を原料としています。つまり、再生可能な資源の利用を増やせば、その分、新たな再生不可能な資源を採掘する必要がなくなるのです。また、植物などを焼却処分する際に排出されるCO₂は、元々その植物が大気から吸収したものであり、植物を燃やしても地球全体のCO₂は増えないため、温暖化は進みません。技術的には、焼却の際の温室効果ガスの排出量から、原料となる植物などによる吸収量を差し引いて、合計を実質的にゼロにする「カーボンニュートラル」を達成している、ということになります。

回避可能なプラスチックの使用は合理化(Reduce・Reuse)した上で、技術水準、安全性、機能性、経済的な状況等にも配慮しつつ、必要不可欠な使用については、より持続可能性が高まることを前提に再生可能性の観点から再生素材や再生可能資源（紙・バイオマスプラスチック等）に適切に切り替え(Renewable)、徹底したリサイクルを実施し(Recycle)、それが難しい場合には熱回収によるエネルギー利用を図ることで、プラスチックのライフサイクル全体を通じて資源循環を促進していきます。

出典：環境省





9つのR？3R以外の大切なR

循環型社会形成を目指すために大切な行動理念として、Reduce（減らす）、Reuse（再使用する）、Recycle（再生利用する）の「3つのR（3R）」があります。また、令和元年に国が策定したプラスチック資源循環戦略では3RにRenewable（再生可能資源への代替）を基本原則とする考え方が示されました（前頁参照）。

このほかにも、循環型社会を形成するうえで大切な「R」がありますのでご紹介します。

大切なR	内 容
Recognize 認識する	ごみに関する様々な課題についてしっかり学び、正しく認識します。
Responsibility 責任を持つ	一人ひとりがごみの発生からごみの処分まで、将来世代に対しても責任を持って行動します。
Reduce 減らす	ごみを出さないように工夫します。具体的な行動として、Refuse(断る)、Rethink（必要性を再考する）、Rental（買わずに借りる）なども含まれます。
Reuse 再使用する	使い終わったものを捨てないで繰り返し使います。具体的な行動として Repair(修理する)、Reform(改良する)、Return(戻す)、Renovation(修復する)なども含まれます。
Recycle 再生利用する	使い終わったものをもう一度資源として利用します。Refine(分別する)も含まれます。
Rebuy 再生品を購入する	再生品を積極的に購入します。Regeneration(再生品の利用を心がける)も含まれます。
Renewable 再生可能資源を活用する	自然エネルギー（太陽光発電、風力発電など）の利用、バイオマス（木材、農業廃棄物など）の利用、再利用可能素材（プラスチック、紙など）の活用などが挙げられます。
Respect お互いを思いやる	ごみを捨てる際には、ごみ処理に関わる全ての人がお互いを思いやり行動します。
Redesign 再設計する	それぞれの取り組みを見直し、再設計を行います。



SDGs と Edogawa ごみダイエツトプラン

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



江戸川区は、「ともに生きるまち」を目指してSDGsに取り組んでいます。

<Edogawa ごみダイエツトプランと関連するSDGsの目標は以下のとおりです>



食品ロス削減のためのフードドライブの実施等により、未利用食品を必要とする方へ適切にいきわたるようにします。



環境教育冊子などを使った環境学習や出前講座、ごみ処理に関する施設（リサイクル施設、清掃工場、埋立処分場など）の見学会を実施し、区民の学びを促進します。



すべての区民に対してごみ収集と資源回収を実施します。



くみ取りし尿や浄化槽などの生活排水の適正処理を推進します。



再生利用が困難な燃やすごみなどについては、熱回収等によるエネルギー変換を推進します。



持続可能な生産消費形態を確保するため、食品ロスやワンウェイプラスチックなどの削減を促進します。また、プラスチックの資源循環を推進し、マイクロプラスチック問題やサーキュラーエコノミーの実現に寄与します。



AIチャットボットやAIを活用して清掃車両の有効活用を行うなど、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進に取り組みます。



誰もが安心して気持ちよく生活できる住環境を維持するため、ごみの適正処理を推進します。



温室効果ガスの排出を減らすため、プラスチックの資源循環を推進するとともに、環境負荷の少ない清掃車両導入の検討を行います。



ごみの削減を促進することで、森林破壊問題解決などに寄与します。また、環境保全の観点からも食品ロスの削減を推進します。



江戸川区の高い地域力を活かし、区民・事業者・区による協働体制を促進します。



目標達成に必要なとなるごみ減量はどのくらい？

区民一人1日あたりの収集ごみ量を418gまで削減するためには、一人ひとりが毎日次のような取り組みを行う必要があります。

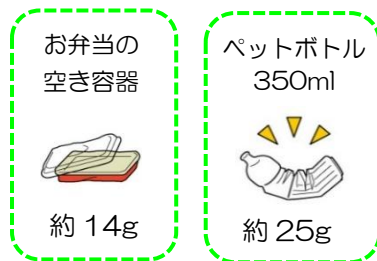
■使い捨てを減らす■



⇒ **39g**の削減

マイ箸利用 マイボトル利用 マイバッグ利用

■しっかりリサイクルする■



⇒ **39g**の削減

過去のごみ減量の傾向が続くと達成が困難な目標です。区民、事業者、区が一体となってごみ減量の取り組みを加速させる必要があります。みんなでごみ減量に取り組みましょう！





学ぼう！ごみのこと

個人

- 循環型社会の形成を意識したライフスタイルへの見直しをしましょう。
- 環境教育、環境学習、リサイクル施設見学会、イベントへ参加しましょう。
- 地域団体、NPO法人などの組織と連携して環境問題に取り組みましょう。
- 地域の集団回収を利用しましょう。
- 自分達が使う量をしっかり把握しましょう。

事業者

- 事業所内外で環境教育を推進し、地域の環境活動に貢献しましょう。
- 環境問題に関する講習会や勉強会に参加しましょう。
- 「循環」や「共有」というキーワードを意識しましょう。
- 環境に配慮した事業活動を意識しましょう。



イベントで食品ロスのクイズに挑戦している様子



出前講座の様子





ごみ減量にチャレンジ！

個人

- ごみの減量を意識した商品を購入しましょう。
- レジ袋削減のためにマイバックを使用しましょう。
- マイ箸やマイボトルを使用しましょう。
- 生ごみ減量のために食材の使いきりや食べ残しの削減、生ごみの水きりを行いましょう。
- 未利用食品はフードドライブに持ち寄りましょう。
- 賞味期限や消費期限を正しく理解しましょう。
- リサイクルバンクや3Rショップを利用して、粗大ごみなどを減らしましょう。
- 資源回収や店頭回収に協力しましょう。
- 再生利用品を積極的に購入しましょう。

事業者

- 製品の製造、加工、流通、販売などにおいて、ごみの発生抑制に努めましょう。
- 繰り返し使用ができ、不用となった場合も資源化しやすく、適正処理しやすい製品を製造、販売しましょう。
- 飲食店などにおいては、調理を工夫したり、生ごみの水きりを徹底しましょう。
- マイバックの利用の促進や、簡易包装に取り組みましょう。



フードドライブの様子





地域をキレイに！ごみ処理のルールを守ろう

個人

- ごみや資源の排出方法などを守り、集積所の清潔保持に努めましょう。
- エアゾール缶や医療廃棄物などの危険な廃棄物については、適切な排出方法を守りましょう。
- トイレの問題なども含め、災害時のごみについて普段からしっかり考えておきましょう。

事業者

- 事業系ごみの自己処理責任に基づき一般廃棄物処理業者へ収集委託しましょう。
- 区の収集にごみを排出する事業者は、ごみや資源の排出方法、時間などを守り、集積所の清潔保持に努めるとともに、有料ごみ処理券を適正に貼付しましょう。
- 廃棄物処理業者は、分別区分などのルールを遵守するとともに、排出事業者に対するルールの周知徹底に努めましょう。





清掃事業とDXの推進

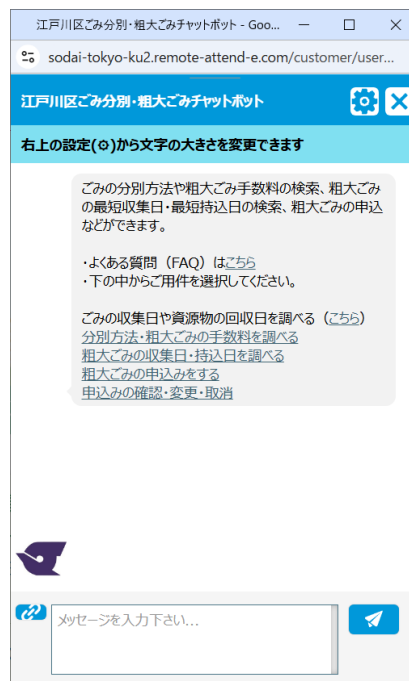
DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、ITの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させるという概念です。

清掃事業でもDXの推進に取り組んでおり、今後も更に推進していきます。

AIチャットボット

AIを活用した「ごみ分別案内チャットボット」の運用を行っています。24時間365日いつでもお問い合わせに回答することができます。区民の皆様からの「このごみの捨て方今すぐ知りたい！」を瞬時に解決します。

江戸川区ごみ分別案内チャットボット



令和7年度時点のデザイン。
デザインは変更される場合があります。